

2010ワークショップ開催報告

実行委員：上田 陽一郎

恒例のワークショップが、今年もラフォーレ修善寺研修センター(静岡県伊豆市)において、10月28日(木)と29日(金)の2日間にわたって開催されました。

本ワークショップは1991年に始まり、エレクトロニクス実装学会の主要行事のひとつとして、本年度で20回目の節目を迎えることができました。

今回は「新産業創出の鍵を握る実装イノベーションー環境調和と創エネ・省エネを担う実装技術を探るー」と題し、32件の接合・材料・PKG・評価など実装分野全般にわたるポスター形式の発表が行われ、発表者と参加者の双方向による熱い議論が行われました。



オリエンテーション

初日は、はじめにオリエンテーションが行われ坪井委員長からスケジュールと進め方などの説明がありました。初めて参加される方が多く、真剣な眼差しで委員長の話を聞かれていました。修善寺ワークショップの主旨でもあるノースーツ、ノーネクタイでのリフレッシュした雰囲気の中でしたが、皆さん初対面の方が多く、少し硬さが残るスタートでした。

第1セッションは1日目の発表者16名によるアブストラクト・トークとポスター発表です。

ひとり3分間のアブストラクト・トークでは、短時間でご自分のポスターに興味を持たせるようなプレゼンテーションが多く、力作揃いでした。

昼食に引き続き、ポスター発表が行われました。発表者が自分以外のポスターを見ることができるよう、今年も交代でクローズの時間を設けました。

総勢44名と少人数でしたが、各ポスターとも熱い議論が行われ、硬さもほぐれてきたようでした。

また、今回は20回目の開催を記念して、これまでのワークショップの歴史を振り返るパネルを作成し、会場に掲示しました。開催した年々の社会背景と実装技術のイノベーションを反映した内容になっており、これまでに参加された方は懐かしく、今回初めて参加された方には、実装技術の歴史を俯瞰できると大変興味深く見ていただきました。



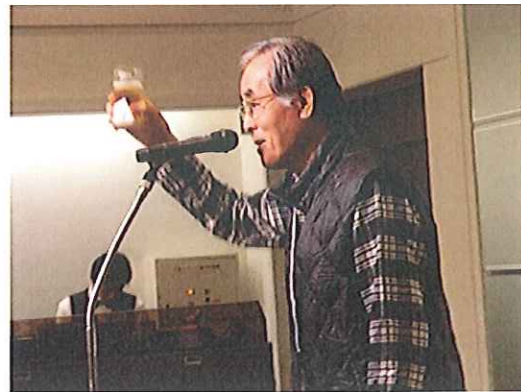
ワークショップ 20年の歴史パネル

初日のポスター発表終了後、部屋割りが発表され、夕食までの自由時間では、各部屋で荷解きをしてから温泉に入ったり、同室の方と昼のポスターについて議論を続けたりと様々な過ごし方をされたようです。

夕食は立食での懇親会です。ワークショップ実行委員会の西顧問のあいさつ、当学会元理事の畑田氏の乾杯で始まりました。

伊豆の地元食材を中心に、美しく並べられた料理も、皆さんの旺盛な食欲でみるみる少なくなっていました。

和やかな雰囲気での懇親会は、実行委員でもある元理事の齊藤氏の締めあいさつでお開きとなりました。



畑田氏による乾杯

第16回(2006年)から開催しているナイトセッションは、この修善寺ワークショップ生みの親の一人でもいらっしゃる岡本明氏(日本科学工業)による講演です。IEEEマイルストーンに認定された「フェライトの発明と工業化」について、フィリップスとの特許係争などの苦勞話を絡めながら、大学発ベンチャーとして、世界に大きなインパクトを与えた技術イノベーションを創出したことの重要性を、静かに、時に熱く語られ、予定の時間をオーバーするほど、聞く者を引き込む有意義なお話しをしていただきました。



岡本氏(ナイトセッション)

ナイトセッションの後は、各部屋に戻っての自由討議です。

ポスターについて討議する部屋、ナイトセッションを題材に討議する部屋、各部屋とも深夜まで明かりが灯っていました。

2日目の発表も16件です。初日同様アブストラクト・トークを行い、ポスターは昼食を挟んで活発な議論が交わされました。

初日の硬さはなくなっており、熱い議論は昨日のそれを上回っているようでした。さすがに終盤は2日間の疲れが少々出ていたようでした。



ポスターセッション

活発な議論の余韻が残る中、東京大学の田中謙司先生による特別講演が行われました。

「電気自動車に始まる二次電池社会シ

ステムイノベーション」と題し、まさに旬の話題をお話いただきました。

お話の中で、普及へ向けた低価格化と二次電池の定置利用については、自動車用を定置用にリユースすることで、二次電池普及に向けた社会システムの構築を提案されており、私たちにとって大変興味深い内容であったかと思えます。



田中先生(特別講演)

最後に、参加者の皆さんにアンケートをお願いしました。皆さんからは、貴重なご意見を頂戴しました。ここで、お礼を申し上げます。

今後の開催に参考にさせていただき、さらにより良いワークショップにしていきたいと、委員一同、心新たにいたしました。